

マップ



所要時間

- ① 県道入口(橋より) ~ ② 登山道(旧軍道) 登り口
※車両は普通車が数台駐車できます。約2キロ

これより徒歩

- ② 登山道(旧軍道) 登り口 ~ ③ 三ノ城戸 約30分
- ② 登山道(旧軍道) 登り口 ~ ⑦ 頂上(旧軍施設跡) 50分
- ③ 三ノ城戸 ~ ④ 二ノ城戸 約10分
- ④ 二ノ城戸 ~ ⑤ 一ノ城戸 約5分
- ⑤ 一ノ城戸 ~ ⑥ 大吉神社 約5分
- ⑥ 一ノ城戸 ~ ⑦ 頂上(城山砲台跡) 約50分
(一部傾斜あり)

金田城豆知識

さきもり とぶひ
＜防人と烽＞

天智2(663)年の白村江の戦いに敗れた倭国は、防人(辺境守備兵)を東国から集め、対馬・壱岐・筑紫に配置し、唐・新羅の侵攻に備えました。

烽は煙を上げて危急を知らせる通信手段で、山頂付近にあったと考えられています。

対馬に烽は数か所あったとされ、北から南へリレーし、壱岐を經由して大宰府までの通信体制が確立されていました。



南西部石塁



一ノ城戸

倭国を守るンジャ!



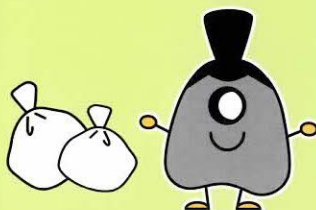
ゴミはお持ち帰りください。
金田城跡をいつまでもキレイにするンジャ。



三ノ城戸



山頂石塁と浅茅湾



これまでの調査結果

金田城は昭和57(1982)年3月23日に国の特別史跡に指定されました。平成5(1993)年度から発掘調査を開始し、これまでに多くの発見がありました。



金田城全景(南東から)

ピングシ山鞍部、同山頂からは掘立柱建物跡が3棟、柵列1列(柱穴5個)が見つかりました。また、鞍部北東側より土塁と礎石(1個)が出土し、ここに門があったことが判明しました。



ピングシ山鞍部掘立柱建物跡

また、土塁の断割り調査を実施した結果、現在の土塁の下から新たな土塁(版築)が確認され、新旧二時期に土塁が造られたことが判明しました。

二ノ城戸の調査では、1間×3間の礎石建ての城門跡が発見されました。城門内部は面が平らな石を敷き詰め、両側に一部階段も残っていました。



南門(非公開)

平成15(2003)年に城の南部、石塁付近を調査した結果、新たな城門跡が発見されました(南門と命名)。

整備内容

これまで調査と同時に小規模な整備(案内板、道標、園路、伐採など)を実施してきました。平成14年度より本格的な整備に取り掛かり、調査が完了したピングシ山鞍部周辺では、整備(遺構表示、以降解説板設置など)を終えました。

今後は石塁や城戸などの修復工事(調査)に重点を置き、整備を進めていきます。

